

7. 新聞記事一覧

(1)地球温暖化関係新聞記事 4紙社説一覧

(08年4月～09年12月)

【朝日新聞】

08. 5. 6 地球温暖化 「炭素の夏」に国境はない
08. 5. 26 「低炭素」への挑戦 あらゆる処方を動員して
08. 5. 27 環境相会合 歩み寄りの芽を育てたい
08. 6. 23 温暖化と中国 排出大国の責任の自覚を
08. 6. 30 サミットと温暖化 現役世代に見える目標を
08. 7. 9 さあ、中国はどう応える 温暖化G8経済 3F危機との長き闘いへ
08. 7. 21 温暖化と紛争 安全保障の発想転換を
08. 7. 28 身近な省エネ 便利を少し我慢しよう
08. 8. 4 ヒートアイランド 風と緑が熱汚染を防ぐ
08. 8. 9 都市の豪雨 危険は思わぬところに
08. 10. 6 地球温暖化と総選挙 「環境」だって票になる
08. 11. 3 温暖化と森林 保全で得する仕組みを
08. 11. 25 不況と温暖化 「緑の内需」の出番だ
08. 12. 7 温暖化会議 来年の合意へ向け前身を
08. 12. 16 温暖化防止 「南北共益」の道はある
09. 1. 4 温暖化防止 「緑の日本」担える政治を
09. 1. 27 温暖化防止 説得力ある中期目標を
09. 3. 16 温暖化と科学技術 太陽を長期戦略の柱に
09. 4. 25 温室ガス削減 中期目標の意味は重い
09. 5. 24 温室ガス削減 日本の決意を中期目標に
09. 6. 11 15%削減 低炭素革命の起爆剤に
09. 7. 6 温暖化防止 この新法を生かしてこそ
09. 7. 7 温暖化防止 歩み寄りへG8の責任
09. 8. 21 09総選挙 脱温暖化 「痛み」をどう説得する
09. 9. 8 「25%削減」 実現へ説得力ある道筋を
09. 9. 18 気候変動サミット 世界動かす環境外交を
09. 9. 24 気候変動サミット 打開へ次の首脳会合急げ
09. 11. 1 暫定税率廃止 間を置かずに環境税を
09. 11. 3 ポスト京都 踏み込んだ政治合意を
09. 11. 22 COP15 G2が動いて世界が動く
09. 11. 25 温室ガス排出 増やさぬ体質に転換を
09. 11. 29 温室ガス削減 さあ外交の正念場だ

- 09. 12. 1 環境税 鳩山首相が決断する時だ
- 09. 12. 6 COP15 人類の明日がかかる
- 09. 12. 9 COP15 日欧連携で交渉を前へ
- 09. 12. 12 COP15 途上国支援を突破口に
- 09. 12. 20 COP15 閉幕 来年決着へ再起動急げ

【日本経済新聞】

08. 5. 4 低炭素社会への道 国際舞台で通じぬ内向きの業界理論
08. 5. 13 さらに踏み込み環境立国の志を示せ
08. 5. 27 環境相会合、目標なき無手勝流の限界
08. 6. 10 排出量取引に踏み込んだ福田ビジョン
08. 7. 9 G8合意、50年50%排出削減の微妙さ
08. 7. 10 G8は洞爺湖で問題解決力を示せたか
08. 7. 13 資源高と温暖化が米国車に変化を迫る
08. 7. 22 低炭素社会への道 日本企業は環境技術で新たな地平を
08. 8. 31 低炭素社会への道 先行する都市の試みを政府も参考に
08. 11. 4 低炭素社会への道 景気後退でも手を抜かぬ温暖化対策
08. 11. 24 温暖化防止、米の変化に日本の覚悟は
08. 12. 2 温暖化防止会議、様子見でなく前進を
09. 1. 26 排出削減目標、内向き議論の危うさ
09. 2. 13 国の理念と志が問われる排出削減目標
09. 5. 22 見識問われる排出削減目標
09. 6. 7 低炭素革命にふさわしい中期目標を
09. 6. 11 国際交渉を主導できる中期目標なのか
09. 7. 7 ポスト京都交渉に力強いメッセージを
09. 7. 11 温暖化交渉の外堀を埋めたサミット
09. 7. 27 海の温暖化対策は日本の好機
09. 8. 21 09衆院選 政策を問う 温暖化を争点にして国のあり方競え
09. 9. 9 低炭素社会への積極策で経済成長を
09. 9. 24 鳩山演説を温暖化交渉の加速に生かせ
09. 10. 12 25%削減いかに実現① 経済性成長と両立させる政策に知恵絞れ
09. 10. 19 25%削減いかに実現② 公平性ある排出量取引や炭素税目指せ
09. 11. 2 25%削減いかに実現③ 低炭素の要の原発に正面から向き合え
09. 11. 4 25%削減いかに実現④ 企業は低炭素時代の経営を世界と競え
09. 11. 8 環境税の導入は暫定税率廃止と同時に
09. 11. 14 温暖化交渉を失速させるな
09. 11. 16 25%削減いかに実現⑤ 「低炭素で豊かな生活」問われる企業
09. 11. 24 25%削減いかに実現⑥ 国際制度づくりに独自の案を出そう
09. 11. 29 米中のCO2削減は不十分
09. 12. 4 なぜ暫定税率の廃止だけを急ぐのか
09. 12. 7 25%削減いかに実現⑦ 低炭素社会へ地域からモデルを作ろう
09. 12. 17 米中を加えた新議定書をあきらめるな
09. 12. 20 弱い約束を確かな排出削減合意に育てよ
09. 12. 30 温暖化で産油国も戦略変化

【毎日新聞】

08. 4. 7 大規模水害 早めの避難で「減災力」高めよ
08. 5. 12 温暖化対策 「部門別」だけで乗り切れない
08. 5. 27 G8環境相会合 中期目標設定に日本の覚悟を
08. 6. 25 国内排出量取引 CO2削減に役立つ仕組みに
08. 7. 5 洞爺湖サミット 地球の危機を救う議論を 環境、経済で米の責任大きく
08. 7. 7 洞爺湖サミット 日米連携の真価が問われる
08. 7. 8 洞爺湖サミット アフリカ自立の出発点に
08. 7. 9 洞爺湖サミット 先進国の削減責任が不明確だ
08. 7. 10 洞爺湖サミット 危機感の共有から行動へ 温暖化回避は「全員参加」で
08. 7. 19 温暖化対策援助 ODAの新モデルに育てよう
08. 7. 30 神戸増水事故 集中豪雨に都市の備えを急げ
08. 10. 22 排出量取引 単なる試行に終わらせるな
08. 12. 2 温暖化会議 最終交渉に向け議論深めよ
09. 1. 28 温暖化政策 新競争からはじかれる前に
09. 2. 15 環境立国 緑の投資で日本の改造を 大規模な支出をためらうな
09. 4. 19 温暖化防止目標 産業構造変える覚悟で
09. 5. 31 温暖化中期目標 ビジョン伴う数字示せ
09. 7. 11 温暖化対策 「2度以内」の道筋作ろう
09. 7. 23 山口豪雨 生活環境の点検を急げ
09. 8. 12 西日本豪雨被害 「町で何が？」徹底検証を
09. 9. 9 25%削減目標 米中動かす戦略も大事
09. 9. 22 気候変動サミット 米国の主導権に期待
09. 9. 24 気候変動サミット 意思表明を具体策に
09. 11. 27 米中削減目標 COP15への追い風だ
09. 11. 30 暫定税率廃止 環境税は入念な設計を
09. 12. 7 COP15閉幕 実効力ある合意目指せ
09. 12. 20 国連気候変動会議 危うい「義務なき協定」議定書作りの歩み止めるな

【読売新聞】

08. 5. 4 温暖化対策 目標があって議論が始まる
08. 6. 10 温暖化対策指針 世界標準の目標にできるか
08. 6. 30 都CO2条例 削減率を公平に課せるか
08. 7. 6 洞爺湖サミット 世界の難題に処方せんを
08. 7. 9 G8環境宣言 世界で目標を共有できるか
08. 7. 10 サミット閉幕 危機克服へ対話を続けよ
08. 7. 30 集中豪雨禍 都市河川が突然牙をむいた
08. 8. 1 低炭素行動計画 革新技術の実用化がカギだ
- 〃 熱中症 猛暑の夏を乗り切るには
08. 10. 22 排出量取引 まずは試してみてもいい
09. 1. 26 温暖化対策 経済危機克服の手段となるか
09. 5. 18 CO2中期目標 「京都」の二の舞いを避けよ
09. 6. 1 防災・気象白書 新たな災害リスクに備えよう
09. 6. 11 CO2中期目標 多難な国際交渉が待っている
09. 7. 11 地球温暖化交渉 先進国と新興国との深い溝
09. 7. 23 中国地方豪雨 危険区域に特養ホームとは
09. 8. 22 温室効果ガス 見極めたい現実的な削減策
09. 9. 9 CO2削減目標 25%のハードルは高過ぎる
09. 9. 24 鳩山環境演説 国内合意なき25%削減の表明
09. 11. 25 エネルギー課税 暫定税率廃止分をどう補う
09. 11. 29 米中の目標公表で弾みつくか
09. 12. 7 COP15開幕 国益最優先で交渉にあたれ
09. 12. 20 COP15 懸案先送りで決裂を回避した

(2)日本経済新聞 ゼミナール CO2(15%)削減社会

09. 8. 13	中期目標 相当の努力とコスト負担必須に
09. 8. 14	世界の中期目標 数値に表れない難易度も考慮を
09. 8. 17	長期目標 発展途上国も削減が必要に
09. 8. 18	日本の排出量 増加基調に歯止めかからず
09. 8. 19	世界の排出量 先進国を途上国などが逆転
09. 8. 20	産業界のスタンス 主体的な目標設定課題に
09. 8. 21	経済成長とエネルギー需要 利用効率の改善など課題に
09. 8. 24	経済成長と長期見通し 成長率低めでも目標達成困難
09. 8. 26	目標達成の条件 エネルギー選択・効率が重要に
09. 8. 27	家庭部門 断熱性高い住宅の普及など鍵に
09. 8. 28	業務部門 低炭素エネルギー利用も必須に
09. 9. 1	運輸部門 公共交通機関活用など重要に
09. 9. 2	自動車の低炭素化 20年の新車の半数次世代型に
09. 9. 3	産業部門 脱石炭・石油推進で排出量減少も
09. 9. 4	電力 火力発電の低炭素化も急務に
09. 9. 7	原子力発電 既存発電所の大出力化も課題に
09. 9. 8	再生可能エネルギー 蓄電システム開発が重要に
09. 9. 9	スマートグリッド 双方向で電力制御し、排出削減
09. 9. 10	回収・貯蓄技術 実証事業に向け日本でも調査
09. 9. 11	家計の負担 初期費用軽減の支援策課題に
09. 9. 14	原発の稼働率 検査間隔延長などがポイントに
09. 9. 15	資源調達と自給率 温暖化対策が安全保障対策に
09. 9. 16	国民の環境意識 意欲的だが重い負担嫌う面も
09. 9. 17	高成長と長期目標 両立には画期的な新技術必須
09. 9. 18	低成長と長期目標 経済停滞なら容易に目標達成も
09. 9. 21	目標上積みのコスト 途中から負担急増の懸念も
09. 9. 22	地方自治体 横並びでない目標達成重要に
09. 9. 23	地方の対策 地域特性生かした施策が課題に
09. 9. 24	排出量取引 融通し合い総コストを抑制
09. 9. 25	国際炭素市場 排出枠配分の公平性などカギ
09. 9. 28	日本の取引制度 10年度から東京都で本格導入
09. 9. 29	カーボンオフセット 身近な対策として日本でも導入
09. 9. 30	クリーン開発メカニズム 制度設計日本にとって重要に
09. 10. 1	海外のクレジット 戦略的な調達が日本の課題に
09. 10. 2	新しい削減計画 迅速な策定が緊喫の課題に
09. 10. 5	コペンハーゲン会議 投資面でも戦略性が課題に

(3)茨城新聞 茨城大学発・持続可能な世界へ

07. 6. 26	サステナビリティ	ビジョン構築の新学問
07. 7. 3	温暖化と共存	地球環境を支える想像力
07. 7. 10	新学問の目標	自然と人間との再結
07. 7. 17	気候変動対応策	適応策に焦点当て研究
07. 7. 24	水戸藩の災害対策	辰ノ口堰造り飢餓を回避
07. 7. 31	おいしい米を研究	品質に温暖化の影響
07. 8. 7	栄養失調人口は8億	食糧援助へ国際的合意を
07. 8. 14	炭酸ガス濃度上昇	高まる微生物分解活動
07. 8. 21	家庭菜園	食と環境を考える機会に
07. 8. 28	豪テレビ「炭素警察」	生活様式、意識に変化
07. 9. 4	温暖化が災害加速①	集中豪雨直後の大地震
07. 9. 11	温暖化が災害加速②	「環境と災害は不可分」
07. 9. 18	代替エネルギー	原子力はもろ刃の剣
07. 9. 25	原子力の平和利用	長期的な放射線調査必要
07. 10. 2	温暖化考える講演会	茨城から情報発信を
07. 10. 9	生活質の向上	ハード、ソフト両面で
07. 10. 16	オゾン濃度の増加で	食糧生産にも悪影響
07. 10. 23	「稲むらの火」に学ぶ	先人の優れた適応策
07. 10. 30	サゴヤシ	環境に優しい熱帯植物
07. 11. 6	共生菌類を利用	新しい農産物生産急務
07. 11. 13	インドネシア交流	3大学招き農業を討議
07. 11. 20	農林業の不振	地域経済に深刻な影響
07. 11. 27	海外研究者の回想録	過剰包装に歴史的背景
07. 12. 4	廃棄物の概念	「排出資源」として活用
07. 12. 11	先住民族の世界観	昭和40年代との類似性
07. 12. 18	水酸化酵素の利用①	白金に替わる利用期待
07. 12. 25	水酸化酵素の利用②	環境に優しい生産工程
08. 1. 15	発展とCO2削減	必要なのは人の力と技術
08. 1. 22	共生の考え方	「人と環境の関係」を重視
08. 1. 29	エコ・フィロソフィ	命に関する哲学的究明を
08. 2. 5	プーケット被災地	つながり支える共同体
08. 2. 19	注目のバイオ燃料	食料の活用に違和感も
08. 2. 26	電気自動車に注目	高いエネルギー効率
08. 3. 4	環境家計簿	自分のCO2排出量知ろう
08. 3. 11	今後の温暖化対策	経済政策と融合、推進を
08. 3. 18	危険度増す洪水被害	伝統的な治水見直しを
08. 3. 25	災害に対する適応策	ハード、ソフトの水害対策

08. 4. 1	大地のエコ・フィロソフィ	英知、努力で自然保護を
08. 4. 8	ベトナムの水上生活	「途上国」から学ぶ価値観
08. 4. 15	外国籍住民と日本人	「共生の知」を創出へ
08. 4. 22	集落コミュニティー	都市農村交流で維持へ
08. 4. 29	戦争による環境破壊	兵器が有害物質に
08. 5. 6	ラオスの不発弾被害	深刻な「クラスター」汚染
08. 5. 13	内モンゴルの草原劣化	強制力高い国政で抑制
08. 5. 20	石油農業行き詰まり	輝く日本の生物資源
08. 5. 27	温暖化で景観変える	地域観光資源に大打撃
08. 6. 3	3段階予防行動	温暖化対策も総合的に
08. 6. 10	公害問題とサステナ	意識変革が重要要素
08. 6. 17	環境汚染	殺虫剤の危険性を訴え
08. 6. 24	洞爺湖サミット	総合的な対応目指す
08. 7. 1	洞爺湖サミット2	温暖化対策への合意、協力
08. 7. 8	洞爺湖サミット3	生活に密接した食糧問題
08. 7. 15	洞爺湖サミット4	温暖化対策の現状を理解
08. 7. 22	サステナビリティ	文系理系の枠超えた講義
08. 7. 29	環境団体の連携	地域に見合った戦略を
08. 8. 5	目指す社会像とは	資源の無駄使いなくそう
08. 8. 12	新しい学問の創出	現代社会の問題克服
08. 8. 19	温暖化と自然災害①	同時発生なら大災害に
08. 8. 26	温暖化と自然災害②	「土砂ダム」対策急務
08. 9. 2	温暖化と自然災害③	地域の適応力を向上
08. 9. 9	温暖化と自然災害④	高潮対策、県民で議論を
08. 9. 23	温暖化と自然災害⑤	高まる水災害の危険性
08. 9. 30	温暖化と自然災害⑥	廃棄物は復旧工事に活用
08. 10. 7	温暖化と自然災害⑦	地域に応じて施策や技術
08. 10. 21	バイオエタノール①	世界中で需要量増加
08. 10. 28	バイオエタノール②	ガソリンに代わる燃料に
08. 11. 4	バイオエタノール③	有望なスイートソルガム
08. 11. 11	バイオエタノール④	輪作体系づくり環境浄化
08. 11. 18	バイオエタノール⑤	環境共生型社会への鍵
08. 11. 25	バイオエタノール⑥	耕作放棄地の再生が鍵
08. 12. 2	次世代につなぐ①	四つの次元で適応必要
08. 12. 9	次世代につなぐ②	理科教育に重要な役割
08. 12. 16	次世代につなぐ③	実践始まる持続発展教育
08. 12. 23	次世代につなぐ④	タイ被災地で実践教育
09. 1. 13	2009年の展望	社会の在り方問われる年
09. 1. 20	アジアにおける交流	熱心に議論する学生の姿
09. 1. 27	新教育プログラム	「養豚」糸口に地域理解を

09. 2. 3	<u>個のネットワーク①</u>	茨城の固有性生かし展開
09. 2. 10	<u>個のネットワーク②</u>	政策効果、予測が重要
09. 2. 17	<u>個のネットワーク③</u>	CO2の「見える化」必要
09. 2. 24	<u>個のネットワーク④</u>	環境がつなぐ連携と協働
09. 3. 3	<u>個のネットワーク⑤</u>	グリーンジョブの増加を
09. 3. 10	<u>個のネットワーク⑥</u>	子どもたちに理科を
09. 3. 17	<u>個のネットワーク⑦</u>	地域との環境活動を
09. 3. 24	<u>個のネットワーク⑧</u>	対話しよう「次代の姿」
09. 3. 31	<u>環境、経済、社会①</u>	中長期視点で再考必要
09. 4. 7	<u>環境、経済、社会②</u>	途上国の温暖化対策支援
09. 4. 14	<u>環境、経済、社会③</u>	日本の経験、技術協力
09. 4. 21	<u>環境、経済、社会④</u>	共通課題解決へ南南協力
09. 4. 28	<u>環境、経済、社会⑤</u>	中国、植林が生んだ格差
09. 5. 5	<u>環境、経済、社会⑥</u>	廃棄にも掛かるコスト
09. 5. 12	<u>環境、経済、社会⑦</u>	新時代の気候変動政策を
09. 5. 19	<u>環境、経済、社会⑧</u>	「無限の経済成長」は虚構
09. 5. 26	<u>霞ヶ浦①</u>	流域全体、視野に入れる
09. 6. 2	<u>霞ヶ浦②</u>	水田生かして水質も浄化
09. 6. 9	<u>霞ヶ浦③</u>	緑肥で「土と水まもる」
09. 6. 16	<u>霞ヶ浦④</u>	変化する低生動物群集
09. 6. 23	<u>霞ヶ浦⑤</u>	「ジオパーク」で国際化を
09. 6. 30	<u>霞ヶ浦⑥</u>	「流域の宝」どう再生
09. 7. 7	<u>未来への扉①</u>	地域に合わせ温暖化研究
09. 7. 14	<u>未来への扉②</u>	「環境適応」「減災」両立を
09. 7. 28	<u>未来への扉③</u>	「成熟社会」に託す課題
09. 8. 4	<u>未来への扉④</u>	「環境」社会の動き加速